

学力調査等の状況	
<p>・全国学力・学習状況調査では、英語/数学とも全国・都平均を、国語は全国平均を上回る結果となった。学習課題に真面目に取り組もうとする姿勢があり、学力の土台となる、基礎的・基本的な語彙や知識が定着している生徒が多い。その反面定着が低い生徒もいる。どの教科においても、様々な文章や資料等から必要な情報を集めて読み取り、考察し、記述する力に課題がある。</p>	

見えてきた課題	
<p>・各教科において、基礎的・基本的な知識及び技能の習得に十分な時間をかけることが必要である。その上で、言語活動(記録・要約・説明・論述・話し合い等)や観察・実験などの活動の質を高めながら、習得・活用・探究の学習サイクルの確立を一層図ることが求められる。 ・一部の学年生徒に、学習や理解に消極的な傾向がある。授業や課題の工夫をしながら改善していきたい。</p>	

授業をデザインする8つの取組について	
価値ある対話の共有	各教科等において習得する知識・技能を、「見方・考え方」を働かせながら比較・統合・関連付け等を行い、自分の考えを広げられるようにする。根拠を基に多様な考えを述べ、他者との対話を通し、自分の考えを深められるようにする。
振り返りの設定	評価規準および基準を明確にし、振り返りの時間を計画的に設ける。また、目標に準拠した形成的・総括的な評価を適切に実施することにより、生徒の学習状況を把握し、指導の在り方を見直し、授業や指導計画等の改善に生かす。
ICT機器の活用	大型提示装置やChromebook等を効果的に活用する。互いの意見を即時に共有したり、全体傾向の把握や考えの比較・分類・整理を行ったりすることにより、学習内容の理解を深められるようにする。

各教科における課題を改善するための指導の重点				
	年度当初に設定した重点	第1学年	第2学年	第3学年
国語科	<ul style="list-style-type: none"> 読書、語句の意味調べ、漢字テストなどを通して語彙力を身に付けさせる。 さまざまな文章を書く機会を設け、身に付けた語彙を正しく活用する力を育成する。 課題に沿って文章を読み深め、文章の内容を正確に把握できる力を育成する。 スピーチや話し合い活動等の意見発表、交流を行う機会を多く設け、さまざまなものの見方、考え方を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> 新出漢字に加え、既習漢字の復習を行い、繰り返し学習を実施する。 語句の調べ学習を通して、言語事項の理解と定着を図る。 様々な読書活動を通して、読書経験を豊かにする。 文章表現力を付けるために、書く際の基本的知識を指導し、目的に合った文章を書く機会を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> 語句の確認、記述の機会を増やす。 文法事項で問題演習を多く行い、知識の定着を図る。 語彙を増やすための活動を取り入れ、繰り返す。また、文の添削など個々への指導をこまめに行う。 文章を発表する場を多くもち、互いに優れた点を学ばせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 継続的な漢字学習、語句の学習を通して言語事項の理解と定着を図る。 文章表現力を磨くために、書く際の基本的知識・構成力を指導し、目的に合致した文章をまとめる機会を増やし、適切な助言を与えていく。 文章の種類に応じて適切な課題を設定し、読解力を養う。
社会科	<ul style="list-style-type: none"> 視聴覚機材を利用して、視覚的に内容を理解できるようにする。また、様々な資料や知識をもとに事象について考え、表現できる力を育成する。 積極的に資料や図、データ等を提示した上で、読み取らせたり、意見を交換させたりすることで、多角的な社会的事象についての見方や考え方を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> 視聴覚教材を多く活用し、生徒が視覚的に分かりやすい授業内容になるよう工夫し、事象に対する理解を深めていく。 自ら事象について考え、その考えを全員で共有できるよう、発表する機会を増やし、表現力の育成を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的な事柄や事象の定着を図るとともに、資料や図を使って自らの考えを表現できるような時間を取り入れる。 多角的な視点で出来事を考察する力を養うため、視聴覚教材を利用し、理解を深めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 視聴覚教材を積極的に利用し、事象について考察し、自ら表現する機会をつくる。 積極的に資料や図、データを提示し、考察させた上で、小集団となって他の生徒の考えを聞き、多角的な見方や考え方を養う。
数学科	<ul style="list-style-type: none"> 課題に対して粘り強く考える場面をつくり、自らが納得して学習ができるようにする。 考えを発表する機会を設け、他者の考え方も学ぶことで自分の考えを深めさせる。 数学用語の意味を理解、把握させる。 基礎力は計算問題を反復練習することで定着させ、応用問題を通して、思考力を高める。 数学の対象に自らが進んで疑問をもち、主体的に学習ができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的な計算力を育むために、計画的に反復練習を行う。 数学的な表現力を付けるために、考え方を記述したり、論理的に説明する場面を作る。 数学の用語の意味を捉えながら理解し、定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的、基本的な練習問題に加え、発展的な内容も取り入れることにより、考える時間を確保する。 自分の考えを伝えたり、他者の考えを受け止めたりする時間を設定する。 「代入」「yはxの関数である」「同位角」などの用語を教師が積極的に用いることで、生徒に数学用語の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 既習事項を確認し、それを利用し発展させられるように助言・指導する。 問題演習を通して、順序立てて論理的に問題を解決する力を育成する。 自分で考える時間と他者と話す時間を大切にし、学びを深めるとともに定着を図る。

⑮-2授業改善推進プラン(中間改善計画)

理科	<ul style="list-style-type: none"> 問題演習の時間を適宜設けることにより基礎的、基本的な知識・技能の定着を図る。 実験、観察において話し合い活動などを通じ、課題を見つけたり、結果から事物、現象の規則性を導いたり、思考・判断・表現の力を育む。 課題に対する評価規準を明示し、目指すべき姿を明確にすることで、生徒の主体的に学習に取り組む態度を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 実験、観察を行い、班で結果に対する考察を考慮することで、思考・判断・表現の力を向上させる。 単元末に、用語整理の時間を設け学級で共有させることにより、基本的な知識の定着を図る。 ワークやプリント教材を活用し、問題演習の時間を充実させることにより基礎・基本の定着を図る。 小テストを実施し、知識の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 実験、観察を行うことで生徒の意欲、関心を高める。 プレゼンテーションソフト等、ICT教材を活用し、実験や観察の結果を視覚的に分かりやすく示すことで、科学的に考える力を高めることにつなげる。 ワーク教材を活用し、問題演習を行うことで、知識の定着を図る。 実験、観察、話し合い活動を通して、主体的・対話的に学ぶ機会をつくり課題解決能力を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> 実験、観察を行うことで生徒の意欲、関心を高める。また、科学的な事物・現象に関して理解を深める。 ワークを活用し、問題演習の時間を充実させることにより基礎・基本の定着を図る。 プレゼンテーションソフト等、ICT教材を活用し、実験や観察の結果を視覚的に分かりやすく示すことで、科学的に考える力を高めることにつなげる。
音楽科	<ul style="list-style-type: none"> 毎時間の指導のねらいを示し、生徒の意欲、技能、表現力、個々の基礎能力を育成する。 視聴覚機器、グループ活動、実技、対話的学習等、学習形態を工夫し、学習内容を深める授業を実践する。 授業や行事での発表を通じ、表現力を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業や自己のねらいを明確にし、発表の機会を増やし、音楽に関心をもち、主体的に取り組む力をつける。 デジタル教科書、クロムブックの機能や視聴覚機器を活用して、視覚、聴覚的にも理解を深める。 基礎能力の定着、表現力を深める力をつける。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業や自己のねらいを明確にし、発表の機会を増やし、音楽に関心をもち、主体的に取り組む力をつける。 デジタル教科書、クロムブックの機能や視聴覚機器を活用して、視覚、聴覚的にも理解を深める。 基礎能力の定着、表現力を深める力をつける。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業や自己のねらいを明確にし、発表の機会を増やし、音楽に関心をもち、主体的に取り組む力をつける。 デジタル教科書、クロムブックの機能や視聴覚機器を活用して、視覚、聴覚的にも理解を深める。 基礎能力の定着、表現力を深める力をつける。

各教科における課題を改善するための指導の重点

	年度当初に設定した重点	第1学年	第2学年	第3学年
美術科	<ul style="list-style-type: none"> 実習において、作業手順を細分化し、スモールステップで感じる力、表現する力を身に付けさせる。 友人の作品や世界の美術作品の鑑賞を通じて、多様な価値観を認め合うとともに審美眼を育てる。 自分自身と向き合い、表現の可能性を広げさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ICT活用の一貫として、高解像度モニターを用いて色彩の学習や名画の鑑賞を積極的に取り入れる。 参考作品を見せることで完成のイメージをもたせて、意欲的・主体的に取り組む力を育てる。 作業の節目ごとに周囲と作品を見せ合い、他者の良い点を見つけさせることでコミュニケーション力を身に付け、学び合う姿勢を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ICT活用の一貫として、高解像度モニターを用いて色彩の学習や名画の鑑賞を積極的に取り入れる。 計画表の予定や振り返り記入を通じて全体の見通しをたて、主体的に取り組む力を育てる。 作業の節目ごとに周囲と作品を見せ合い、幅広い視点があることに気づかせ、学び合う姿勢を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ICT活用の一貫として、高解像度モニターを用いて色彩の学習や名画の鑑賞を積極的に取り入れる。 計画表の予定や自身のテーマ、振り返り記入を通じて全体の見通しをたて、探究的に取り組む力を育てる。 作業の節目ごとに周囲と作品を見せ合い、幅広い視点を身に付け、学び合う姿勢を育てる。
保健体育科	<ul style="list-style-type: none"> 準備・補強運動、種目に応じた体ほぐしの運動を取り入れ、基礎体力向上を図る。 一斉指導で技能のポイントを理解させる際に、視覚的に分かりやすいように、見本を見せたり、視覚的教材を活用したりして理解させる。 ペアやグループで学習を進めていくことで、お互いの理解につなげ、思考判断や知識理解の定着と、意見やアドバイスをすることで言語能力の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 学年に応じて補強運動の回数を増加し、強度を高める。 クロムブックを使用し、技能のイメージを視覚的に分かりやすいようにする。 互いの姿をクロムブックで撮影し合い、客観的に見て課題を明確にできる力を養う。発見した課題の改善策をペアやグループで伝え、言語能力を向上させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学年に応じて補強運動の回数を増加し、強度を高める。 クロムブックを使用し、技能のイメージを視覚的に分かりやすいようにする。 互いの姿をクロムブックで撮影し合い、客観的に見て課題を明確にできる力を養う。発見した課題の改善策をペアやグループで伝え、言語能力を向上させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学年に応じて補強運動の回数を増加し、強度を高める。 クロムブックを使用し、技能のイメージを視覚的に分かりやすいようにする。 互いの姿をクロムブックで撮影し合い、客観的に見て課題を明確にできる力を養う。発見した課題の改善策をペアやグループで伝え、言語能力を向上させる。
技術・家庭科	<ul style="list-style-type: none"> 先を見通して課題に取り組む力を養う。そのために、基礎基本の定着を図る。 どのような作業をどのような工程を経て行うかの指示を明確にし、段階的評価、定期的な学習内容の確認を行う。 体験的な活動を通して、学習内容をより深められるような実習を実施する。さらに、ICT機器による映像教材の使用によって、より効果的な学習となるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業や自己のねらいを明確することで、先を見通して課題に取り組む力を養う。 デジタル教科書、クロムブックの機能や視聴覚機器を活用して、指示を明確にし、段階的評価、定期的な学習内容の確認を行う。 映像教材の使用によって意欲を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業や自己のねらいを明確することで、先を見通して課題に取り組む力を養う。 デジタル教科書、クロムブックの機能や視聴覚機器を活用して、指示を明確にし、段階的評価、定期的な学習内容の確認を行う。 映像教材の使用によって意欲を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業や自己のねらいを明確することで、先を見通して課題に取り組む力を養う。 デジタル教科書、クロムブックの機能や視聴覚機器を活用して、指示を明確にし、段階的評価、定期的な学習内容の確認を行う。 映像教材の使用によって意欲を高める。

⑮-2授業改善推進プラン(中間改善計画)

<p>外国語科</p>	<ul style="list-style-type: none"> 1学年では、ペアワークやグループワークの時間を多くとり、状況・場面・設定に応じた表現力を育成する。少人数指導では、語彙や表現、基本文法の反復練習に取り組み、自己表現につながる基礎基本の定着を目指す。 2、3学年では、少人数指導の特性を生かし、個に応じた指導の充実を図り、基礎的・基本的な知識・技能を習得させる。 テーマを与え、興味・関心のある事柄について主体的に考え、自ら発信するコミュニケーション活動を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の発話、音読および発表の機会を多く設け、自己表現につながる活動や練習の時間を確保する。デジタル教科書を活用する。 間違いを恐れずに英語を用いて表現活動ができるよう、達成感の得られる課題を設定し、生徒の意欲を引き出す。 基礎基本を定着させ、主体的に学習を継続できるよう、家庭学習や自主的な学習の方法を示し、個別に助言する。 	<ul style="list-style-type: none"> デジタル教科書やスライドを活用して、ポイント指示を明確にした授業を展開する。 暗唱カードを使用して主体的に学ぶ姿勢を養う。 発話を通してのクラスメイトとの活動を増やすために、簡単な英会話を帯活動として取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> デジタル教科書のワードカードや本文の音声データを活用することでリスニング力やスピーキング力を養う。 ディベート等の活動を設け、学んだ内容を用いて、英語での表現力を養う。 振り返りシートを活用して、生徒自身で学習を管理する力を養っていく。
<p>特別の教科 道徳</p>	<ul style="list-style-type: none"> 問題解決的・体験的な学習を取り入れ、議論や発表などの活動を通して、多様な見方・考え方に接し自己の生き方について考えを深めさせ、道徳的な判断力・心情・実践意欲と態度を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学期に一度、いじめに関する道徳を実施し、いじめを許さない気持ちと態度を育てる。 職場訪問やゲストティーチャーに向けて仕事に対する心構えや自己の生き方について考える機会を与え、職業観を深め、社会性を育てる。 リレー道徳を実施し、生徒の道徳授業への関心を高めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 学期に一度、いじめに関する道徳を実施し、いじめを許さない気持ちと態度を育て、生徒が安心して過ごせる環境をつくり上げていく。 職場体験に向けて職業観を深め、多様な考え方を養っていく。また、マナー講習を行い、おもてなしの気持ちやマナーやエチケットを学ぶ。そして、ルールを守る態度を育てる。 リレー道徳を実施し、生徒の道徳授業への関心を高めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 身近な話題や社会問題等について考え、自己理解や他者を尊重する気持ちを発表や話し合い活動を通して育てていく。 学期に一度、いじめに関する道徳を実施し生徒のコメントを模造紙に貼って掲示すること等で他者を理解する気持ちを育てる。 リレー道徳を実施し、生徒の道徳授業への関心を高めていく。
<p>総合的な学習の時間</p>	<ul style="list-style-type: none"> 体験的な学びの中で、生徒自身による課題設定と振り返りを行う。自ら学んだ成果や過程を意味づけ、評価することを通し、次の学びに生かせるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 自然、環境との体験的な学びの中で、各自で課題を設定し、課題を解決する力を育てる。 調査や体験で学んだことを新聞やレポート、クロムブックを活用し発表して、主体的、協働的に学ぶ力を付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路にむけてや、体験的な学びの中で、各自で課題を設定し、課題を解決する力を育てる。 調査や体験で学んだことを新聞やレポート、クロムブックを活用し発表して、主体的、協働的に学ぶ力を付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路にむけてや、福祉、歴史や文化的な学び、体験的な学びの中で、各自で課題を設定し、課題を解決する力を育てる。 調査や体験で学んだことを新聞やレポート、クロムブックを活用し発表して、主体的、協働的に学ぶ力を付ける。

各教科における課題を改善するための指導の重点

	年度当初に設定した重点	第1学年	第2学年	第3学年
<p>特別活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> 年に2回、QUアンケートを実施し、いじめや不登校の早期発見・対応に生かす。学級活動では、協働的な活動に取り組み、多様な意見に接し、互いを認め合い考えを深め、学び合う集団を形成する。 	<ul style="list-style-type: none"> QUアンケートの結果を生かし、一人一人が伸びやかに生活できる学級づくりを行う。 学級活動では、自分の考えや意見をち、発表することで、互いに学び合うことのできる集団を形成する。 	<ul style="list-style-type: none"> QUアンケートの結果を元に、個性を尊重し、互いを受容できる学級づくりを行う。 学級活動では、様々な意見を出し合い、価値観や考えの違いに触れつつ、互いを尊重できる集団を形成する。 	<ul style="list-style-type: none"> QUアンケートの結果を元に、一人一人の将来に対する不安に寄り添いつつ、互いを受容できる学級づくりを行う。 学級活動では、話し合い活動や集団での活動を通して、互いを認めあったり、励まし合ったりすることのできる集団を形成する。

⑮-2授業改善推進プラン(中間改善計画)

⑮-2授業改善推進プラン(中間改善計画)

⑮-2授業改善推進プラン(中間改善計画)

⑮-2授業改善推進プラン(中間改善計画)

⑮-2授業改善推進プラン(中間改善計画)

・宿題(文法の問題集)への取り;

⑮-2授業改善推進プラン(中間改善計画)

⑮-2授業改善推進プラン(中間改善計画)

⑮-2授業改善推進プラン(中間改善計画)

組みの改善のため、授業内での・デジタル教科書のワードカードや本文の音声データを活用する。

⑮-2授業改善推進プラン(中間改善計画)

⑮-2授業改善推進プラン(中間改善計画)

⑮-2授業改善推進プラン(中間改善計画)

ことでリスニング力やスピーキング力を養う。暗唱カードを使って、本文の音読練習に主体的に取

⑮-2授業改善推進プラン(中間改善計画)

⑮-2授業改善推進プラン(中間改善計画)

⑮-2授業改善推進プラン(中間改善計画)

り組む意欲を引き出していく。E振り返りシートを活用して、生徒自身で学習を管理する力を養ってし

⑮-2授業改善推進プラン(中間改善計画)

⑮-2授業改善推進プラン(中間改善計画)

⑮-2授業改善推進プラン(中間改善計画)

1<。